連載…

No. 6

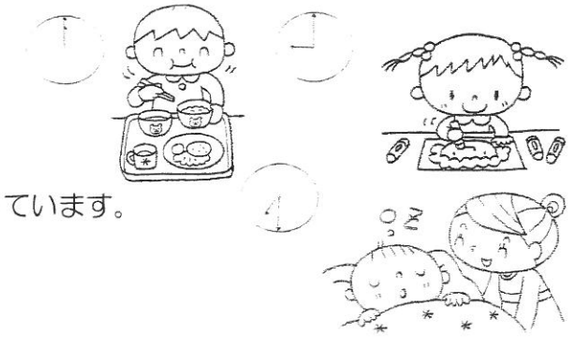
モンテッソーリ教育ってなあに?

2012年10月

これまで日常生活の活動、感覚教育についてお話ししてきました。

今回は「**数教育**」についてお話ししましょう。自分の年齢を数えられるようになった頃から興味を持つ「数」の世界。2 歳頃には秩序を好み、数への基礎づくりが始まっています。

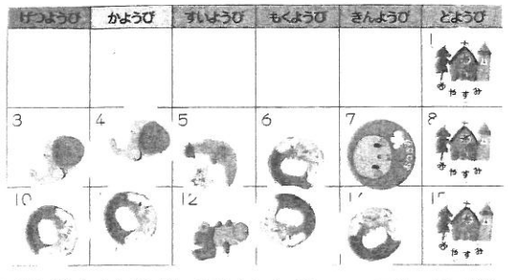
「**数教育**」と聞くと、幼児に数などまだ早い、難しいのでは？と思われるかもしれませんが、数の世界は人間の生活から切り離されたところにあるのではなく、ある意味で生活そのものが数の世界と言えるのです。たとえば、私たちは生活の中で、一定時間がくればお腹がすき、眠り、目が覚めます。



一日の生活自体、実は数と深い関係を持っています。

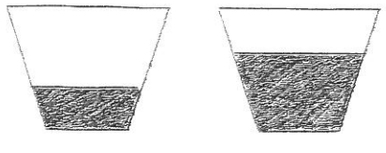
例えば…

☆出席カードのシールを枠の中に貼ること



・順番通りシールを貼ることは数につながります。

☆子どもは２歳ぐらいからコップに注がれたジュースの量が多いか少ないかで兄弟げんかをします



・これは、どちらのコップのジュースの量が多いかが分かっているからです!

※このように生きていることは、直接的にまた間接的に数と関わっています。

数は論理的にできているので物事の順序を理解して「論理的な思考過程」を育てます。そして、感覚教具に触れることは数教育につながります。

◎感覚教具は数の活動の基礎になる！！

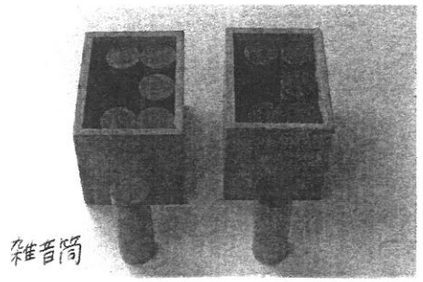
1. 対応づけ（同一性さがし）

（例）雑音筒、布あわせ、ひみつ袋など･･･

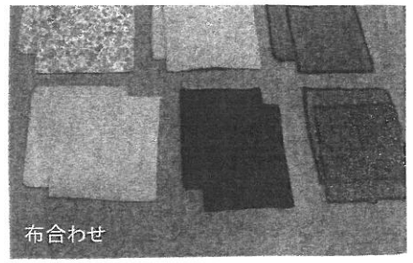
☆たくさんある中から同じものを選ぶあたまの働きの練習

☆数量と数字を正しく対応させるための準備

１や２や３には、その背景となる実物の集まり、つまり量があります。数詞と量ができ、それが書き表せるようになって初めて数の概念を理解したと言えるのです。


雑音筒

秘密袋


布合わせ

2. 順序づけ（漸次性さがし）

ぜんじせい

漸次→しだいに、だんだん徐々に変わる

（例）→ピンクタワー、赤い棒など…

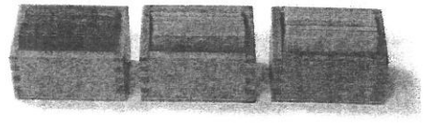
☆数の１、２、３…が一定の漸次的な変化を追っていることを知らせる準備

（ピンクタワー）

（赤い棒）

3. 分類づけ（類似性さがし）

（例）重量板



３種類の重さの違う板がセットになった教具です。ふたり一組になって、ひとりは目隠しをします。もうひとりが１枚ずつ重さの違う板を乗せてあげ、その重さの違いを感じ取ります。